ヘルスメーター

鼠径(そけい)ヘルニアについて

脱腸とは、おなかの壁の弱い部分を通って内臓が外に突出する状態を指し、ヘルニアとも呼ばれます。おなかの壁は、鼠径部(太ももの付け根)・へそ・手術で切った傷痕等が弱く、ここでは特に多くみられる鼠径部での脱腸「鼠径ヘルニア」について説明します。

鼠径ヘルニアには、先天性(生まれつき)と後天性(生まれた後に発症する)があります。先天性の場合、乳児期から鼠径ヘルニアを発症します。後天性の場合は、筋力の低下した高齢者、力仕事・立ちっぱなしの仕事や肥満によって鼠径部に圧力がかかりやすい人に見られる傾向があります。体の構造の違いにより、男性に多いという特徴もあります。

症状は、立っていると下腹部が膨らむけれど寝ると膨らみがなくなる、膨らんでいても手で押し戻すことができる、といった軽度のものがほとんどです。

鼠径ヘルニアは重症化する場合もあります

症状が進行すると、痛みが出たり、吐き気や便秘等の消化器症状が現れることもあります。重症の場合、突出した内臓が戻らず血液が流れなくなる状態を「嵌頓(かんとん)」と呼び、時間と共に突出した内臓が壊死し、腹膜炎等を生じて重体となるため、緊急手術が必要となります。

軽症のままの人が多いのが鼠径ヘルニアの特徴ですが、いつ「嵌頓」が起きて重症になるか予想がつかないのが鼠径ヘルニアの難しいところであり、「嵌頓」を起こす前の、症状が軽い段階での治療が推奨されています。

鼠径ヘルニアに特効薬は無く、鼠径部を補強する手術が最も有効な治療です。年齢・症状等によって手術方法が異なることから、専門医の診療を受けることが重要です。重症になる前に治療が受けられるよう、早めに医師に相談しましょう。また、手術後は体重管理や、腹圧をかけないよう重い物の持ち上げを避けること等が再発予防に役立ちます。

稲城市医師会　平岩(ひらいわ)　訓彦(くにひこ)